

道徳年間指導計画(中1)

基本方針

多様な価値観を吸収し、人間としての幅を広げながら、「徳のある人間とはどのような人間か」を考えさせる。

回	テ	マ	ね	ら	い	教	材	学習指導要領の内容項目	7	つ	の	習	慣
1	友人の	多様性を受容する	多様性を受容することへの理解を深め、人間の幸福は「他者から認められる」ところから得られることを踏まえて、それぞれの多様性を認め、共存・共生していきける寛容さを養うこと。人と人の境界線(差別など)は人の心が生み出していることを理解させる。人と人なりを先入観や決めつけで安易にとらえないよう、コミュニケーションを通じ、相互理解できる資質を養うこと。	担当教師による独自教材及び教科書 「いつもいっしょに」 P.47～55 「違いについて」 p.72	・思いやり、感謝 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 ・公正、公平、社会正義	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
2	命の	尊さを知る	何気なく生活している自分を振り返り、生きていることについて考えること。その中から、普段はあまり考えることがない生命の尊さというものを理解し、同時に誕生してきたことへの感謝、命を育ててくれた両親への感謝の気持ちを持つこと。	担当教師による独自教材及び教科書 「誰かのために」 「いのちのつながり」 P.166～169 「形見」 P.125～127	・生命の尊さ ・感動、畏敬の念	・終わりを思い描くことから始める ・最優先事項を優先する							
3	なぜ	私たちは学ぶのか	人類の知識と経験の蓄積に対してどのような態度をとるのか考えること。日頃の学習活動の根本にあるこの問題に自分たちで取り組むことによって、一段高次元の視野を得るとともに、学習のモチベーションを高めること。	担当教師による独自教材及び教科書 「志～幼少の記憶より～」 P.26～29	・向上心、個性の伸長 ・希望と勇氣、克己と強い意志 ・真理の探究、創造	・刃を研ぐ							
4	公共心・	公德心を養うために	自分自身が毎日生活し、生きている家庭を中心とした社会、そして地球には、数多くの人が同じように生きて、生活をしている。その多くの人々と限られた環境の中で私たちがどのような心をつき、心配りをしながら生きていかねばならないのかを考えること。相手思いの友情にもつながる公共心について考えること。	担当教師による独自教材及び教科書 「僕じゃないのに」 P.78～80	・節度、節制 ・遵法精神、公德心 ・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・よりよい学校生活、集団生活の充実	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
5	ルール	について考える	私たちは一人では決して生きていくことはできない。そして、人が複数になれば、少しずつルールが生まれる。ルールとは社会や集団に属する人たちが気持ちよく生活するために、お互いに辛抱し合おうというものである。今一度、身の回りにおけるルールを思い出し、守るために必要な姿勢について考えること。	担当教師による独自教材及び教科書 「曲がり角」 P.36	・節度、節制 ・遵法精神、公德心 ・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・よりよい学校生活、集団生活の充実	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
6	社会の一員	として	人間は動物の一種だが、人間社会の中で育てられてはじめて人間となる。また、生命・財産を保障し、自由意志に基づく活動ができる社会には規律やルールが不可欠である。社会の一員となることは、人間を正しく理解し、社会を担う主体であるとの認識を持って生きることである。個人と社会の関係を基本原則から考え、学校生活を経て社会に出ていく自分たちのなすべきことは何かを確認すること。	担当教師による独自教材及び教科書 「町内会デビュー」 P.108～113	・節度、節制 ・遵法精神、公德心 ・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・よりよい学校生活、集団生活の充実	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
7	国際社会	に生きる	「グローバルレジン」という言葉があるように、現在は通信技術の発達により地球全体が一つの村ようになってきている。異なる言語・文化に触れ、多様な価値観に触れることになる。その際、言葉の通じない人同士の間では、「言葉」そのものよりも、「伝えたいという気持ち」、「相手を理解しようとする気持ち」が大切である。心と心のつながりが大切であることを理解し、積極的に実践すること。	担当教師による独自教材及び教科書 「永久欠番42」 P.92～97	・国際理解、国際貢献	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
8	自由と	責任	「自由は人間としての本質」と言われるほど、自由は私たちにとても大切なものである。自由と責任の関係を改めて考察することで、自由についての理解を深めること。また、自由を享受するために私たちが日頃から心がけなくてはならないことは何か、努力しなければならないことは何かについても考察を深めること。	担当教師による独自教材及び教科書 「銀色のシャープペンシル」 P.8～12	・自主、自律、自由と責任 ・公正、公平、社会正義	・主体的である							
9	いじめ	の無い社会	私たちは一人ひとりが個性を持っており多様であるにも関わらず、学校であれ職場であれ集団生活の中では画一的な考え方が存在し、それに適応できない人は責め立てられる風潮があるため、いじめが発生しやすい。様々な道徳観、価値観の存在について話し合うことで集団の中にいる自分を自覚すること。	担当教師による独自教材及び教科書 「フロレスごっこ」 P.104～107	・思いやり、感謝 ・友情、信頼 ・公正、公平、社会正義	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
10	礼儀	について	礼儀の意義と効用について時代や国際的背景などを踏まえた考察を進めながら、日本人として、社会人として、江戸取生として必要な礼儀について考察する。礼儀を単に観念として捉えるのではなく、日常の生活の場で実践することを通して、礼儀をさらに進化させること。	担当教師による独自教材及び教科書 「おはよう」 P.44～46	・節度、節制 ・礼儀	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
11	福祉	社会	社会の高齢化が進む中で福祉社会の在り方が社会構成員全員の課題になっている。2000年に介護保険が登場してから、様々な制度の見直しが行われている。その中心になるのが地方の福祉対策の重点化である。地域のボランティア活動が成り立っている制度となっている。身近なボランティア活動を行い、ノーマライゼーションの考え方を深めること。	担当教師による独自教材及び教科書 「朝の地下鉄」 P.42～43	・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・よりよい学校生活、集団生活の充実	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
12	働くこと	の意義	福沢諭吉の有名な「心訓七則」の中に二つの仕事に関わるものがある。一番目には「世の中で一番楽しく立派な事は、一生を貫く仕事を持つことです」、三番目には「世の中で一番さびしい事は、する仕事のない事です」とある。私たちにとても早いうちからしっかりと仕事観を持つことが大切であり、自分の将来を決定づけることを理解すること。	担当教師による独自教材及び教科書 「仕事と心」 P.120～124	・希望と勇氣、克己と強い意志 ・勤労 ・よりよく生きる喜び	・刃を研ぐ							
13	家族	について考える	人間はその誕生以来「家族」という最小限の集団を核として成長し、次第に自分の世界を拡大して、「社会」的動物として「人生」を送っていく。その意味で「家族」は人間存在の根幹になるものである。ただし、戦後日本の発展の中で伝統的な家族像は確実に変化し、崩壊してきたのが現実である。一方で、家族を取り巻く普通の状況も当然ある。そうした様々な面を考察することで、人間の本性、人生の在り方を考えること。	担当教師による独自教材及び教科書 「ペーパーバード」 P.130～133 「親子の手紙」 p.134～135	・思いやり、感謝 ・家族愛、家庭生活の充実	・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
14	文化	の多様性	日本という国家はどのようにして形成されたのか、また日本人という意識はどのように形成されたのかを考察すること。その過程で、地方・地域によって独立した多様な文化・習慣を維持してきたという現実が見えてくる。物事の表面を見るだけでなく、そのすべてを断定するのではなく、その部分や背景を子細にみることによって多様性に気づくこと。	担当教師による独自教材及び教科書 「銅像が教えてくれたこと」 P.141～143	・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ・国際理解、国際貢献	・主体的である ・Win-Winを考える ・まず理解に徹し、そして理解される ・シナジーを創り出す							
15	情報化	社会を生きる	スマートフォン、メール、SNSなどの功罪について考えること。利便性を共有し、活用しながらも、自身の健康と安全に留意して節度ある生活を築いていこうとする態度を身につけること。	担当教師による独自教材及び教科書 「グループ」「ネットコミュニケーション」 P.98～103	・希望と勇氣、克己と強い意志 ・節度、節制 ・よりよい学校生活、集団生活の充実	・終わりを思い描くことから始める ・最優先事項を優先する							
16	自己	肯定感を高める	自己を見つめ、自己の向上を図ると共に、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。また、他者との関わりの中で自分自身の良さや個性を見出し、それを認め伸ばしていこうとする心情を高めること。	担当教師による独自教材及び教科書 「オレは最強だ」 P.16～20 「自分の心の中の自分」 P.81～85	・自主、自律、自由と責任 ・向上心、個性の伸長 ・よりよく生きる喜び	・主体的である ・刃を研ぐ							
17	持続可能	社会とは	持続可能社会とはどのような社会かを検討し、個人、地域、国、世界としてのどのような取り組みをすべきか考え、実践すること。	担当教師による独自教材及び教科書 「ももこ」 P.114～119 「環境先進国江戸」 p.148～152	・社会参画、公共の精神 ・国際理解、国際貢献 ・自然愛護	・終わりを思い描くことから始める ・最優先事項を優先する ・Win-Winを考える							

【校長講話】

リーダーの条件(その1)	夢の具現化へ・・・野口英世に学ぶ	キーワード: 初志貫徹・切磋琢磨
リーダーの条件(その2)	世界のリーダー・・・リンカーン大統領に学ぶ	キーワード: 読書は人格を磨く
リーダーの条件(その3)	内なるリーダー性・・・孔子「論語」に学ぶ	キーワード: 克己復礼
リーダーの条件(その4)	対人関係力・・・二宮尊徳に学ぶ	キーワード: 道徳なくして改革ならず
リーダーの条件(その5)	グローバル人材・・・マザー・テレサに学ぶ	キーワード: 利他の心
リーダーの条件(その6)	「学問のすすめ」・・・福沢諭吉の思想に学ぶ	キーワード: 20年、30年先を見据えよ

- ※ 年度末:道徳の全体発表会実施:1コマ
クラス代表生徒発表(約6分×8名=50分)、学年部長のまとめ(20分程度)
- ※ 自己評価と道徳を学んでの下原稿作成:1コマ(70分)
- ※ 教科書:道徳 中学校1 生き方から学ぶ(日本教科書)